

行為を特徴づける概念に着目した、伝統的琉球民家の西側空間の改修、改築の分析

日大生産工(院) ○加藤 夏乃 日大生産工 篠崎 健一
東京工業大学 藤井 晴行 東京工業大学(院) 佐藤 雄大

1. 研究の背景と目的

本研究は、伝統的な景観や民家が多く残ると言われる沖縄県の伊是名集落を研究対象としている。現在、伊是名集落の伝統的民家は赤瓦屋根の経年劣化や木造の部材の老朽化により、住民によって改修されている。本研究は、この住民の民家の改修という行為を実体的側面¹⁾と意識的側面¹⁾から捉えることで空間変容の特徴を理解し、民家の伝統性を今日に継承することの可能性について議論することを目的としている。実態的側面では実測調査や聞き取り調査から、改修前後の民家の変容の事実を抽出し、把握する。意識的側面では、居住者への聞き取りから大切にしている文化や重視することなどの、居住者の民家を改修に対する想いや考えを抽出し、居住者の意識に基づいて改修という行為を捉える。

本稿は、特に炊事屋や風呂と便所などの水回りが位置する伝統的琉球民家の西側空間の改修に着目して探究する。これまでの研究⁶⁾⁷⁾⁹⁾より民家東の主屋と西の炊事屋を別棟とする二棟造りから、二棟が合体するという基本的な変容モデルが明らかにされている。また、現地での調査から炊事屋の位置や規模の変更、風呂や便所の内部化による改修が多く行われている、といった空間変容の事例を集めている。

2. 現地での活動

伊是名集落における調査は、集落の民家の空間と人の生活の探究を目的とし、民家実測、祭祀調査などを継続的¹⁾に行っている。第一筆者は、2019年から一連の研究に参加し、実際に伊是名集落を訪れ集落の生活を体験している²⁾。村や集落の祭祀に積極的に参加し、話し、食べ、飲むなどの日常生活の経験を共有することで、集落の生活や人々との密着を深めている。また、過去に撮影した調査時の動画などの研究資料を繰り返し見ることによって、知見を得ている。これらの取り組みは、研究対象への理解を深め、解釈するための経験を積み重ねることに結びついている。

3. 調査の方法

3.1. 調査の概要

民家調査は2014年に開始し、2017、18年に集中的に行い、その後2019年まで追調査を行っている。2020年3月に調査結果をまとめ報告書(5分冊)⁴⁾を制作している。伊是名集落の民家160軒のうち66軒(後辺³⁾の民家47/49軒、前辺⁴⁾の民家19/111軒)の調査を行っている。

3.2. 実地調査

住居の現在の状態を捉えるために実測調査を行う。同時に居住者から生活の様子や過去の住居の状態、住居の改修に着目し、自由に語ってもらい聞き取り調査を行う。適宜、構造化した聞き取りも行う。実測調査は、居住者立会いのもと行い、空間構成や家具を図面に記録し、同時に動画や写真で撮影する。聞き取り調査は、その全過程を動画や静止画で記録する。

3.3. 一次資料の作成

実地調査で得た情報を一次資料として整理する。

- 1) 調査時に記録した図面や写真をもとに詳細な平面図を作成する。また、家具や生活用品など一時的なものを描き加えた平面図も作成する。
- 2) 語りを記録した動画データから、語りの内容をテキストとして抽出する。この時、指示代名詞や地域独特の表現には誰もが理解できる言葉を補足する。補足のルールと表記の記号を表1に示す。語りのテキストは全8559テキストを得ている。

表 1 言葉を補う際のルール

()	話し手の使用した言葉を別の言葉に置き換える場合は、話し手の言葉を括弧に入れて記す。
(())	記述の際に補った言葉は、二重括弧に入れて記す。
< >	話し手の動作からの推量は、その旨を三角括弧に入れて記す。
<< >>	観察事実・推論は、その旨を二重三角括弧に入れて記す。
[]	聞き取りの状況や発話に関して注意すべきことがあれば、四角括弧に入れて記す。

3.4. 二次資料の作成

調査情報が充実する25軒⁵⁾を対象として、一次資料を参照し、改修前後の住居の変化をカードに整理した二次資料を作成する。二次資料には①現在の住居の状態を表す平面図と、語りのテキストから類推した②過去の住居の状態の平面図、③変化を端的に表す短文(表札)、④変化に関する語りのテキストを記す。上記4つを記したカードを変化シートと呼ぶ。変化シートは25軒から全689枚を得ている。

民家番号	K3_16	③表札: 変化の内容を表す
シート番号	005	炊事屋の床を、西側に半間土間を残して土間から板張りの床に変更する
④ 改修に関連する語りのテキスト		
TEXT	聞き取りテキスト	
23	風呂台などの配置は、おばあさん(前の主?)がいた頃と変わらない。	
25	ここ(二番の西側の収納の扉の角の柱を指して)から西側は(仮的)落ちて土間であった。	
31	システムキッチン(これ)がなかった頃は、石の塊(これ)が落ちたのだと思う。	
32	今は土間の出入り口を壁の向きにしている。	
33	風呂、石の風呂は、野垂れ落ちるの用に重宝している。	
96	座子さんと石蔵さんは、日中はキッチンのテーブルの方にいる。	
97	前ごはんと後ごはんはキッチンのテーブルで食べる。	
107	お客さんが来ていても、二番の方とキッチンとの一体感がある。	

図 1 変化シートの例

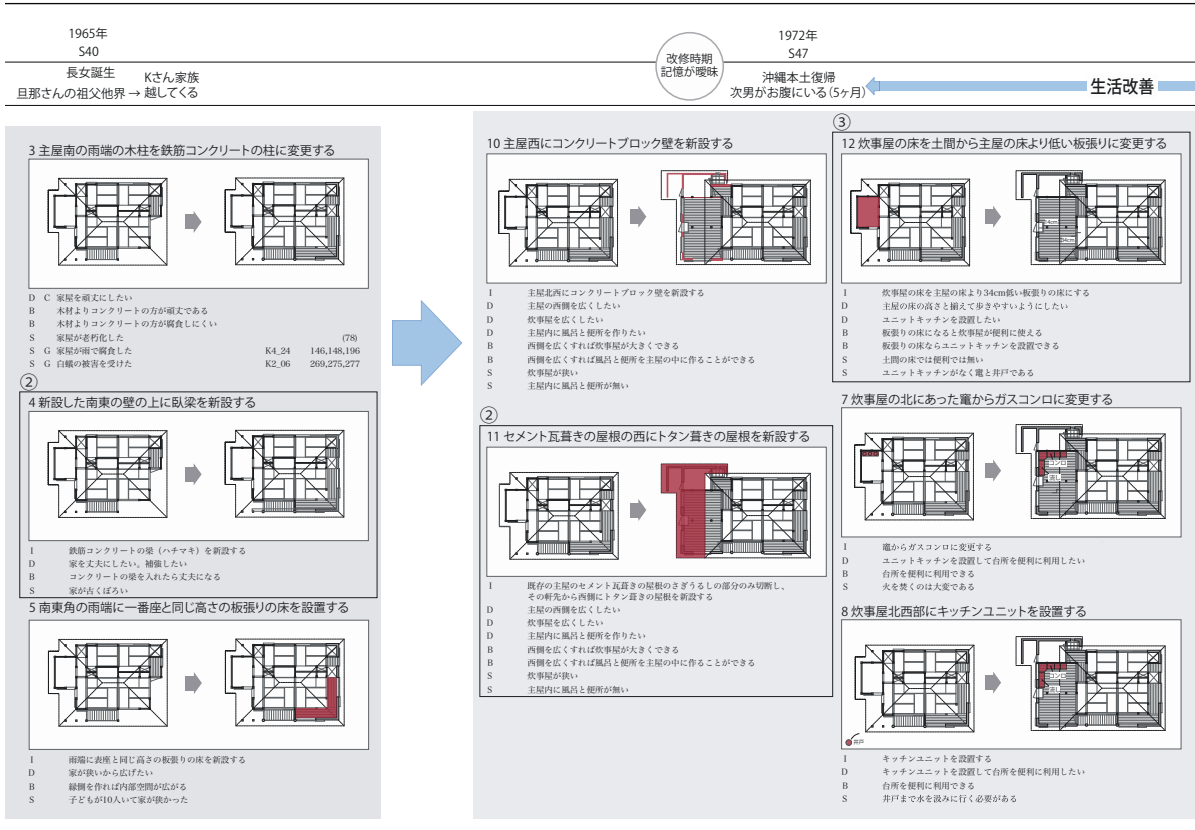


図 2 SAdu 家の改修を時系列に沿ってまとめたものの一部 (実態的側面)

4. 行為の概念

Fred Dretskeは、人間の行動は「理由」と「原因」の2つの形で説明されるとし、理由により説明された行動を行為と呼ぶ。理由の中には、何を欲するかという欲求と行為者が何を信じるかという信念があり、これらは相互に作用する。

本稿では、住居の改変を行う際の、改修によって成し遂げたいことを「欲求Desire」、行為者が信じる知識や経験を「信念Belief」、改修の具体的な行為を「意図Intention」として分析する。民家の改修の意図的側面の理解に行為の概念を用いることで、民家の改修における居住者の行為の選択を分析し、物理的な形として現れない、もしくは形からは読み取ることができない可能性のある改修の理由を抽出できないかと考えている。

5. 研究方法

- 1) 変化シートを用いて各民家の改修の実態を時系列に沿って整理する。このとき、社会背景や居住者の家族構成の変化なども含め整理する。
- 2) 改修の実態とその改修に関する語りのテキストを対応させ、それぞれの変化に関する語りのテキストを信念B、欲求D、意図Iに分類して記す。
- 3) 分類した語りのテキストを図式表現する。改修の事実や当該民家の語りのテキストに加えて、同様の改修が行われている他民家での語りのテキストや文献を参照して演繹する。また、建築の知識や実態的側面から類推可能なことも加え詳細に分析する。

6. 結果

本稿では、SAdu家を代表例として取り上げる。この民家は、民家の改修に関する聞き取りを詳細にでき、民家の西側空間の改修において他の民家でも見られる、この地域で多く行われている改修を含んでいる。SAdu家では語りのテキストを225、変化シートを23枚得ている。

6.1. 炊事屋の改修

1) 改修の実体的側面

主屋の南西にコンクリートブロックの壁を新設し、その上にトタン屋根を葺くことで炊事屋を3畳から12畳に拡張している。この時、炊事屋の床は土間から主屋より34cm低い板張りの床に変更している。また竈に変わる設備としてガスコンロとキッチンユニットを導入している。この改修の事実を図2に示す。図2は、SAdu家の改修の全容を示すデータから炊事屋の改修に関わる情報を抜粋したものである。

2) 改修の意識的側面

炊事屋の改修に関わる行為の概念の関係を図3に示す。炊事屋の改修における「炊事屋の床を土間から主屋より低い板張りの床にする」という行為を取り上げ、この改修に関する行為の概念の関係性に着目する。

語りのテキスト203「主屋の床と炊事屋の床(ここ)をあげて、ひとつにバリアフリーみたいにしたかった。」から、欲求D「炊事屋の床を主屋と同じ高さに揃えたい」を抽出する。また、語りのテキスト42「この家を屋根西側(ここから)半分を切り落として、

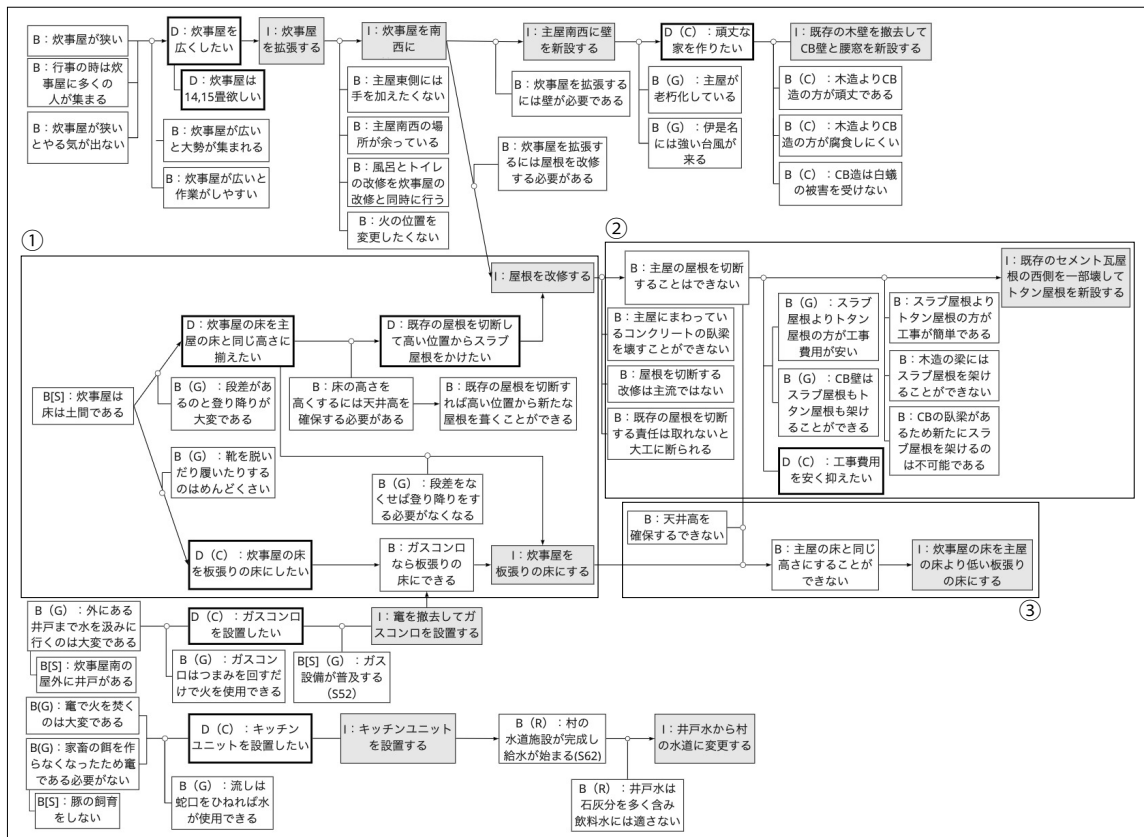


図3 炊事屋の改修に関する信念、意図、欲求の関係 (意識的側面)

(屋根を)少し高く上げてスラブをつくってほしいと大工さんをお願いした。」から欲求D「既存の屋根を切断して高い位置から屋根を葺きたい」を抽出する。これら2つの欲求より、信念B「床の高さを上げるには天井高を確保する必要がある」、信念B「主屋の屋根を切断すれば高い位置から新たな屋根を葺くことができる」という2つの信念が確認できる。これらより、意図I「主屋の屋根を改修する」につながる。(図3①を参照)

語りのテキスト43「しかし、大工さんに、家をカットする責任は取れないと断られたので、トタン屋根を葺いて、ただ広くした」、語りのテキスト204「二番座南のコンクリートの梁(これ)も取れなければどうにかしてって思ったけど、流し(ハチマキ)だと思っから、もうどうしようもできない。」より、信念B「コンクリートの臥梁を壊すことができない」、信念B「コンクリートの臥梁があると主屋の屋根を切断できない」という信念を抽出する。観察事実として、既存の主屋の屋根の軒先からスラブ屋根がかけられている。(図3②を参照)

既存の屋根を改修できないことにより、信念B「炊事屋の天井高を確保することができない」つまり、信念B「炊事屋の床を主屋の床と同じ高さに揃えることができない」ということがわかる。(図3③を参照)

以上より、信念B「既存の主屋の屋根を壊すことができない」に至り、欲求D「炊事屋の床を主屋と同じ高さの板張りの床にしたい」が否定されたことで

「炊事屋の床を主屋の床より低い板張りの床にする」という意図Iに至り、実行され「炊事屋の床は主屋より34cm低い板張りの床である」として観察できる。

6.2. 風呂とトイレの改修

1) 改修の実体的側面

主屋の北西にコンクリートブロックの壁を新設し、その上にトタン屋根を葺き主屋を増築する。そこに五右衛門風呂と水洗トイレを設置している。その後、ボイラーを導入し、バスタブとシャワーを設置、五右衛門風呂を撤去している。

2) 改修の意識的側面

「主屋内に風呂とトイレを設置する」という行為を取り上げ、その位置決定に関わる行為の概念の關係に着目する。炊事屋の床の改修同様、詳細に分析を行なったが本稿では簡潔に示す。

語りのテキスト59「姑の実家の風呂に入りに行く(それ)のでは困るので、風呂場と便所をこちらに現代的につくらせてもらった。」より、欲求D「主屋内に風呂を作りたい」、欲求D「主屋内に風呂を作りたい」を抽出する。さらに、語りのテキスト225「トイレは風呂場の北東(ここ)だったけど、風呂が狭くなるからもっと東(あっち)と言って、風呂場の東側(そこ)に作らせた。」より、欲求D「風呂場の広さを確保したい」を抽出する。また、関連する他の語りのテキストや他家での語り、文献の引用などにより図式表現した行為の概念の關係を図4に示す。図4に示す図式は、風呂とトイレの改修の位置決定に関する情報の抜粋であり全容を示すものではない。

7. まとめ

民家の改修という行為を、実態的側面と意識的側面から捉えることにより、1)～3)に示す本研究手法の有効性が明らかになった。さらに、4)～5)に示す研究の可能性を感じることができた。

- 1) 実態的側面と意識的側面の両側面を重ねてみることで、民家の改修という行為をより詳細に理解することができる。
- 2) ひとつひとつの改修という行為に関して、より深く、豊かに見ることができる。
- 3) 改修という行為として実行されていない欲求を理解することができる。(本稿 6.1 参照)
- 4) 居住者が語っていない信念を理解、推論することにつながるのではないか。
- 5) 伊是名集落における民家の改修に共通するパターンを物理的な改修の事実としてではない、住民の意識的な部分で捉えることができるのではないか。
- 6) 民家の改修をいくつかの行為の組み合わせとして捉え、抽出できるのではないか。

謝辞

伊是名集落における研究は、東京工業大学藤井晴行研究室と日本大学篠崎健一研究室が、2014年以來、共同で行っている。伊是名集落の皆様と関係者に謝意を表する。

注釈

- 1) この研究は2014年に開始し、2017、2018年には集落の空き家を借り受け、長期滞在しながら調査研究を遂行している。この臨地研究拠点をリビングラボと名付け、現地での生活を体験している。
- 2) 2019年6月13日から6月20日の8日間、2019年7月22日から7月31日の10日間、2020年3月18日から3月24日の7日間伊是名集落に滞在し調査を行なった。
- 3) 集落の北側の地域。特に伝統的な景観と生活が残る。
- 4) 集落の南側の地域。比較的、新しい民家が多く、住民も多い。
- 5) 25軒の内訳は、現住民家が21軒、空き家が4軒である。

参考文献

- 1) 藤井晴行, 行為を特徴づける概念に注目する民家の改修と居住の分析, 日本建築学会大会, 2021, 日本建築学会計画系論文5011
- 2) 篠崎健一, 藤井晴行, 沖繩伊是名集落民家の空間構成への住意識の現れ-空間図式と建築の実態との結びつきに関する研究その2-, 日本建築学会大会, 2015, 学術講演梗概集
- 3) 藤井晴行, 吉原百香, デザインという行為における思考過程の特徴の形式表現 デザイン科学の方法論の構築に向けた思考実験, 日本建築学会大会, 2013, 日本建築学会計画系論文集第78巻 第693号
- 4) 篠崎健一, 藤井晴行. ほかに, 沖繩県伊是名集落調査まとめIII
- 5) 河島一郎: 行為の一般性と個別性-デイヴィッドソンはアンスコムとどこで別れたのか?, 東京大学教養部哲学・科学史部会, 2006, 哲学・科学史論叢第八号
- 6) 鶴藤鹿忠, 琉球地方の民家, 明玄書房 (1972)
- 7) 野村考文, 南西諸島の民家, 相模書房 (1961)
- 8) 坂本啓雄, 沖繩の集落景観, 九州大学出版会 (1989)
- 9) 武者英二, 久米島民家の空間構成, 日本の民家調査報告書集成16, 東洋書林 (1999)
- 10) 伊是名村史編集委員会 編: 伊是名村史 下巻 島の民族と生活, 伊是名村 (1989)
- 11) フレッド・ドレツキ, 行動を説明する (因果の世界における理由), 水本正晴訳, 勁草書房 (2005)

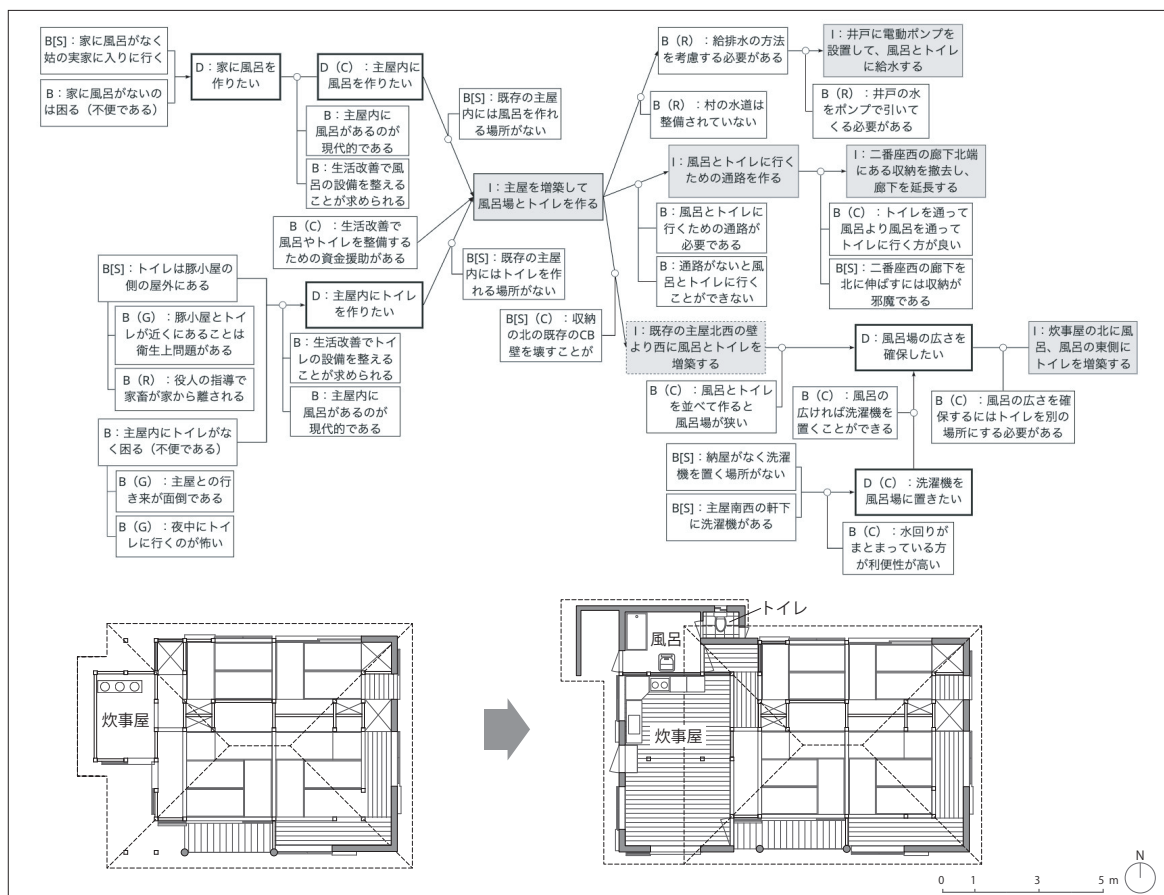


図 4 風呂とトイレの改修に関する信念、意図、欲求の関係 (意識的側面) と民家の改修の事実 (実態的側面)